

平成 25 年度

参加と協働市民フォーラム実施報告



平成 26 年 3 月

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会

狛江市

■目的

今回のフォーラムでは、今後設置が予定されている市民活動支援センターの活用も見据え、市民活動に関する事例報告と事例報告者を囲んだ意見交換を通じて身近な市民活動の内容について理解と認識を深めるとともに、市民活動実践者とフォーラム参加者がお互いの考え方や意見を共有することで、市民協働を推進することを目的とする。

■フォーラムテーマ

協働で市民力アップ！～市民活動支援センターの活用を見据えて～

■主催／企画運営

狛江市／狛江市市民参加と市民協働に関する審議会

■日時及び場所

平成26年1月25日（土）午後2時～4時
狛江市役所防災センター4階会議室

■出席者数

- ・一般参加者：22人
 - ・基調講演講師：1人
 - ・事例報告者：6人（「ボランティア活動・高齢者」「障がい」「子育て」「若者・災害」の4分野）
 - ・前年度市民協働事業提案制度実施報告：3人（うち1人は事例報告者と重複）
 - ・審議会委員：11人（うち1人は事例報告者と重複）
 - ・市事務局：3人
- 計44人

■当日の流れ

- ・開会あいさつ
- ・基調講演
- ・事例報告
- ・意見交換、報告
- ・前年度市民協働事業提案制度実施報告
（狛江にプレーパークをつくる会、子育て支援課、道路公園課）
- ・閉会あいさつ

■当フォーラムのまとめ（今後の活用方法など）

フォーラムで出された貴重なご意見等については、次のような機会などに活用させていただきます。

- ①今後の当審議会活動など（例：参加と協働市民フォーラムなど）に取り入れること。
- ②市民活動支援センター開設準備委員会など、他の委員会等にも情報を提供し、ご意見等を参考にしてもらうこと。
- ③本報告書を市ホームページで公表することで、狛江市の市民活動に参考にして頂くこと。

※フォーラムの様子や出された意見等については、次ページ以降をご参照ください。

■基調講演（約 20 分）

テーマ 「結んで開く、地域活動～ボランティアの拠点を運営するポイント～」

講師 吉田 信雄 さん（元・かながわ県民活動サポートセンター）

<主な内容・抜粋>

- 東日本大震災以降、主に岩手県沿岸部で活動するボランティアを支援するため、岩手県遠野市にボランティアの活動拠点を設置するなどし、2年に及ぶ活動でボランティアバス約 100 台、延べ 3 万人のボランティアの派遣に携わってきた。
- ボランティアの拠点運営にあたり全国から集まったボランティアを支えたのが、地元の女性団体や老人会、町内会など遠野市で様々な活動に携わる人々であった。
- 地域には、日頃から地道に活動している人が多くいる。こうした人々が大切である。
- 市民活動支援センターの使命は、市民活動支援センターがあったから市民のきずなや、活動者の顔が見えるボランティア活動などが増えたと言われるようになることであり、また、ボランティア活動などに関心がなかった人が集まって出会い、狛江のまちを良くするんだという雰囲気を作ることである。
- ボランティア活動には課題も多い。一つは活動者が集まらないということ。ボランティア活動に関する情報不足もあり、活動をしなさいと言われてもどこで何をすることがわからないことが多い。
- ネットワークコミュニケーションツールが発達しており、ラインやフェイスブックなどで情報を提供すれば気軽に参加できるようになる。発信する情報は「いつ」「どこで」「何を」「誰が」「どんな理由で」「どのくらい」の支援を必要としているのかといったことである。
- 今日覚えてもらいたいことは、テーマにもある「結んで開く」ということ。狛江のまちを良くするために考えたことや情報共有したことを、外に向けて発信することが大切だということ。
- 情報を共有したり発信したりする際には、黒子の役割をこなすキーパーソンが必要となる。会議の進行にあたっては発言せずに黙っている人に意見を求めるなど、その場を作るファシリテーター役である。また、ICTを活用したコミュニケーションも重要である。
- サラリーマンや主婦、子ども、高齢者、公務員など様々な人がいる中で、市民活動支援センターという市民活動のプラットフォームを運営するにあたり大事なことは「共通理解できる言葉」で話すことであり、これが難しい。例えば「戦略が必要」といった場合、戦略という言葉の捉え方が違ったり意味がわからないということにもなる。そうすると話合いが止まってしまう。
- 今後、是非、「結んで開く」を実践していただきたい。

<基調講演の様子>



■事例報告（約 20 分）

<事例報告者>

- 大塚 隆人さん（狛江市社会福祉協議会／ボランティア活動・高齢者分野）
- 笠松 敦子さん（狛江市障害者団体連絡協議会防災ネット事務局／障がい者分野）
- 岡本 千栄子さん（狛江にプレーパークをつくる会／子育て分野）
- 田中 秀三さん（都立狛江高等学校／若者・災害支援分野）
- 湯澤 哲太さん（市立狛江第二中学校／若者・災害支援分野）
- 佐々木 日向さん（市立狛江第二中学校／若者・災害支援分野）

<事例報告の様子>



■意見交換・報告（約40分）

<意見交換分野>

「ボランティア活動・高齢者」、「障がい者」、「子育て」、「若者・災害支援」

■意見交換グループ別まとめ（抜粋）

<ボランティア活動、高齢者グループ>

- グループの中に民生委員や福祉の仕事に携わる方がおり、それぞれの活動を通じた課題について意見が出された。
- 孤立している高齢者をどのように支援し、社会とつなげるかといった課題が出された。
- 福祉に関する市の取組みや、NPO法人や個々の活動などをどのように集めてつないでいくのか、という話し合いをしたいということになった。

<障がい者グループ>

- 当事者からは声を上げにくい。障害の症状がわかりにくかったり、外に連れ出しにくいといったこともある。
- 障害のことについて知ってもらわないといけない。障がい者だけが集まるのではなく、災害発生前など日頃から地域での交流を行うなど積極的に社会に入っていくことが大事。
- 日中の時間帯では、地域の中学生在が一番力になるのではないか。日頃から障がい者の状況などを知ってもらう取組みが必要。
- 市民活動支援センターでは、障がい者や中学生など様々な人が一緒に活動できるような場であってほしい。

<子育てグループ>

- 父が不在で一人で子育てを抱えている人など、子育てで困っているお母さんが多い。
- 世代を超えたつながりの場がないことや、集まって会話をする場がないといった問題がある。
- 道端で遊ぶ子どもたちを見かけるが子どもたちの行き場も少ない中で、プレーパークは魅力的である。こうした場所が近所がないことが問題でもある。
- 市民活動支援センターに期待することは、様々な力を持つ市民を連携させられる役割である。

<若者・災害対策グループ>

- 防災訓練のマニュアルづくりに関わった方や市民活動支援センター開設準備委員の方、防災訓練に参加した体験がある方など、それぞれの経験を生かしていきたいという意見があった。
- 中学校や高校での防災体験では、避難所としての利用が想定される体育館の床に寝るなど被災者の立場を体験することができた。
- 市内の各中学校区に、事例報告にあったような第二育成委員会が実施する「ふれあいひろば」のような取組みがあったらよい。
- 公共施設などではAEDがどこに設置されているのかわからないことがある。

<意見交換の様子>



<吉田講師・コメント>

- 意見交換をする中で、誰かの批判はダメ。多いのは行政の批判や子どもの批判。ある内容について対応されていないことを批判するのではなく、困っていることを述べるのが大事である。
- 今回のようなフォーラムを高校性が主催したら良いのではないかと思った。
- 主催者の市に対するお願いとしては、市民活動団体や個人の横の繋がりをつくる事務局担当者の役割が大切。ボランティアに期待するのではなく、職員として対応すべきポイントである。
- 市民から相談があった内容を、他の機関や関係する人につなぐ役割が求められる。
- 意見交換はお茶を飲みながらやるなど、雰囲気を作っても良いと思う。
- 皆さんの熱い思いに感動した。

■平成24年度市民協働事業提案制度事業実施報告（約15分）

<報告者>

- 岡本 千栄子さん（狛江にプレーパークをつくる会）
- 鈴木 弘貴さん（狛江市建設環境部道路公園課管理係）
- 中村 貞夫さん（狛江市児童青少年部子育て支援課企画支援係）

<事例報告の様子>



■アンケート集計結果

<性別>

◇男性：10人、◇女性：11人

<年齢>

◇20歳未満：5人、◇20代：0人、◇30代：1人、◇40代：4人、◇50代：0人
◇60代：7人、◇70代：4人、◇80歳以上：0人

<職業>

◇生徒・学生：5人、◇会社員：2人、◇自営業：1人、◇公務員：8人、◇主婦：4人
◇その他：1人

<この事業を何で知りましたか>

◇広報こまえ：5人、◇狛江市ホームページ：1人、◇ポスター：4人
◇知り合いに誘われた：14人、◇その他：2人

<興味のある市民活動分野>

◇防災・災害支援：12人、◇障がい者支援：7人、◇子育て：7人、◇青少年：7人
◇環境・自然：6人、◇スポーツ：4人、◇学習・学び：7人、◇文化・芸術・音楽：7人、
◇地域活動：10人、◇その他：3人

<主な自由記述>

- 中高生の立派な発表に安心感を持つことができた。横のつながりをできる限り早く実現して欲しい。
- 市を活発にする活動などの様子が良く分かった。
- 講師の持ち時間が短く残念。スクリーンの文字が読みにくかった。
- それぞれの立場で活発に活動されていることが伺えた。
- 市民活動支援センターが開設され、機能することを期待している。
- 様々な活動があることを知りよい勉強になった。今後、横のつながりが広がるように色々と試行を進めて欲しい。
- “結んで開く”というシンプルな講演について理解できた。市民活動支援センターの開設期にはNPOなどが語り合う（結ぶ）過程も大事だと思う。時間が足りなかった。
- 狛江に元気な若者がたくさんいることがわかった。
- 中学生として発表したり、色々な方と話すことができて良い経験になった。自分ももっと積極的にできることをしなければ、と思った。
- 初めてフォーラムに参加したが、とても多くの刺激を受けた。
- これからも積極的に活動に参加すべきだと思う。
- 市民活動支援センターは、市民がいつでも立ち寄れる便利な場所であって欲しい。
- 審議会委員の方々が、より市民活動の現場の声や雰囲気を感じて欲しい。せっかくの好機だったが、時間が足りなかった。
- 基調講演と事例報告に関連性があるとよかった。
- 活動団体をNPO法人化させるためのノウハウや、組織の継続性などについて、参加者から助言をもらうことができた。団体同士の横のつながりがあると心強く、また、つながりを必要としている方が多いと感じた。